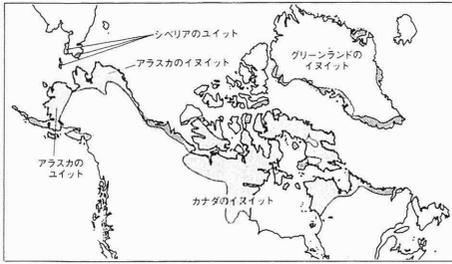


# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

カナダ・イヌイット社会におけるニューメディア革命：テレビ、ラジオや電話の普及と利用の影響  
(人類学の視点)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-03-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岸上, 伸啓 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/5502">http://hdl.handle.net/10502/5502</a>



イヌイットとユイットの分布

いわれ、米国を除けば、この民族名称を公称としては使用しないようになってきている。我々が、エスキモーと呼んできた極北の狩猟民は、大別すればイヌイットとユイット

という名称は、クリー・インディアン語の「生肉を食らう輩」を意味する単語に由来すると言われ、米国を除けば、この民族名称を公称としては使用しないようになってきている。我々が、エスキモーと呼んできた極北の狩猟民は、大別すればイヌイットとユイット

## カナダ・イヌイット社会におけるニューメディア革命

— テレビ、ラジオや電話の普及と利用の影響 —

岸上伸啓 (北海道教育大学)

### 極北の狩猟民

多くの日本人は、イヌイットは知らなくてもエスキモーなら知っているに違いない。エスキモーというと、氷にとざされた寒い世界に住み、犬ぞりや氷原を旅し、アザラシを取っては生で食べ、夜になると雪の家で寝る、自然とともに生きる人々というイメージを持っている人が案外多いのではないだろうか。また、エスキモーという民族名称が民族差別用語であることを御存知であろうか。われわれが何気なく使用している「エスキモー」という名称は、クリー・インディアン語の「生肉を食らう輩」を意味する単語に由来すると言われ、米国を除けば、この民族名称を公称としては使用しないようになってきている。我々が、エスキモーと呼んできた極北の狩猟民は、大別すればイヌイットとユイット

という相互に言葉が通じない二つのグループの両方を指す総称であった。この二つのグループの間には、言語や文化に大きな差異がみられ、異なる民族とみなしうるぐらいの違いが存在する。ユイットはシベリアの一部およびアラスカの中・南西部極北地域を主な居住地としており、イヌイットは、アラスカ北西部、カナダの極北地域とグリーンランドを主な居住地としている。従って、現在のユイットは、ロシアと合衆国に属し、イヌイットは合衆国、カナダおよびデンマーク領グリーンランドに属していることになる。

### カナダ・イヌイットの現状

カナダ・イヌイットとは、カナダに住むイヌイットの総称であるが、一九九〇年の時点でその総人口は、二万八千あまりと推定されている。彼らは、北西準州、ユーコン準州、ケベック州の北部およびラブラドルに広がる寒冷ツンドラ地帯で生活を営んでいる。

現代のカナダ・イヌイットの生活の現状を簡単に紹介してみたい。一九六〇年代にカナダ政府の強力な指導のもとに実施された定住化政策の結果、彼らは平均すれば三五〇から

五〇〇人余りの村落を形成し、政府が提供した暖房完備のプレハブ家で定住生活をおくっている。村には、役場、学校、生協、看護所、発電所やラジオのコミュニティ放送局があり、現代の生活をおくるうえでどうしても必要と思われる施設や設備はカナダ政府や州政府によって提供されている。

彼らはホッキョクイワナ、アザラシや野生トナカイを捕獲して生活の糧にしてはいるが、飛行機や船で運ばれてくる食料品に対する依存度が年々高くなってきており、彼らの社会へは、現金がなくては生きていけない社会へと変貌してしまっている。彼らは、国や(準)州が支出する各種の生活補助金や福祉金、役場や生協などでの賃金労働、滑石彫刻の製作などによって現金を入手し、生活をおくっているのが実状である。

現金収入を得ることは、生きていく上でもっとも大切なことではあるが、成人男子の主要関心事は今でも漁撈や狩猟であるといえる。ただし、現在では犬ぞりではなくスノーモービルを、カヤックではなく船外機付きカヌーを、弓矢や槍の代りに高性能ライフルを使用し、近代技術を利用した生業活動を行っている。また、一九八〇年代に入り、各村に電話がひかれ、テレビ、ラジオやビデオなどの電化製品をほとんどのイヌイットが利用するようになった。

このように現在のカナダ・イヌイットの村



現代のカナダ・イヌイットの村落イヌクジュアック（ケベック州北部）人口800名余り。



テレビを見ながら夕食をとるイヌイットの家族。1990年北ケベックのアクリビック村にて。

落の大多数は世界から孤立した社会ではなく、カナダ社会の中に政治・経済的に組み込まれ、その一部として存在しているのである。ここでは、新しい情報伝達技術や手段の導入が引き起こしたイヌイット社会の変化をいくつか紹介してみたい。

### 極北におけるニューメディア革命

一九八〇年代に入ってからカナダ・イヌイット社会におけるテレビ、ラジオや電話の普及と利用は、イヌイットの生活様式や社会関係にこれまでにないような影響を与えた。筆者は、これを極北におけるニューメディア革命と呼ぶことにする。

テレビの普及により、イヌイットも幾つかのテレビ局の放送を見ることができるようになった。テレビは、娯楽のために見られることが圧倒的に多いが、若い世代のイヌイットは英語や仏語を理解することができるため、いろいろな番組を通して、カナダ国内外の政治経済情勢や外国についての知識を得ることができ。さらに、彼らは世界やカナダ国内で自分たちが置かれている立場や係わっている諸問題をニュースを通して少なからず認識することができるようになった。さらにイヌイット自身が制作したイヌイット語の文化番

組は、彼らの間でイヌイット民族としての民族意識や北方民族としての仲間意識などを生み出す要因の一つとなっている。

だが、また、若者は欧米的な生活様式や考え方にテレビ番組を通して接するようになり、伝統的なイヌイットとは異なる行動様式を好む者も出てきたのも事実である。さらに、朝から晩までの英語やフランス語による番組放送は、幼児や若者のイヌイット語習得に否定的な影響を及ぼしてきている。また、娯楽の無かった時代には、村内の友人や親戚しんせきの者の家々を訪問して回ることが一般的であったが、テレビやビデオがイヌイットの間に普及するにつれて、特別の用事のある時や暇をもてあましていた時以外は、他の家を訪問せず自宅から朝から晩までテレビを見るようになり、人々の訪問パターンにも影響を及ぼし始めている。

電話は本来、一対一のコミュニケーションの手段ではあるが、この普及と利用は、イヌイットの人間関係に多大な影響を及ぼすに至っている。ケベック州北部にあるアクリビック村では、電話が一九八〇年代の半ばから普及し始め、現在では一世帯に一台どころか、多数の若者が自分の部屋に個人用の電話を引いている。このため、電話を利用すれば、イヌイットは村内外の人と自由に連絡が取れるようになった。

村内でのコミュニケーションに電話を利用

すれば、他の家を訪問しなくても、狩猟の打ち合せ、食事への招待や必要な物をねだるなどのお断りをするができる。イヌイット社会では、人々は頻りに親族の者を訪問する慣習があるが、テレビ、ビデオや電話の普及とともに、この訪問慣習やパターンが変化し、対面的な接触の頻度が少なくなってきたように見受けられる。

また、村外とのコミュニケーションに電話を利用することによって、遠方や他地域の村に住んでおり、日頃は会うことのできない親族の者や友人と電話一本で簡単に連絡が取れるようになった。電話がイヌイット社会に普及する以前は、ひとたび別れ、別々の村に住むことになるのと再会は極めて難しいことであつたが、電話を利用するようになってからは、近況をお互いに知らせ合うことができるようになった。

村内ラジオ放送も訪問パターンや情報交換に影響を及ぼした。カナダ政府の政策により、極北地方にあるすべての村落には、村内向けのFMラジオ放送施設が設置されている。このFMラジオ放送は、電話の利用とあいまって、イヌイットのコミュニケーション・パターンに革新をもたらしてきたといっても過言ではない。

特に、電話とは異なり、ラジオ放送は一挙に、多数の人間に同じ情報を伝達することができるという点で重要である。通常、一人の



アクリビク村のFMラジオ放送所。1990年北ケベックのアクリビク村にて。



パソコンを学ぶ子供たち。1992年北西準州ベリエイ村の中学校にて。

アナウンサーなりDJが村内にあるFMラジオ放送所から、村民に対し放送をし、情報を伝達するのが一般的であるが、各世帯の電話の普及・利用により、村人が家から放送所に電話をかければ、アナウンサーがラジオ放送に接続し、村中の全世帯へとその話を放送することができるようになった。すなわち一方的とはいえ、一対複数の村人とのコミュニケーションが可能となったのである。例えば、村内でどれかを探しているとすると、ラジオ放送所に電話をかけ、その人物にたいし、だれだれに電話してくれと放送する。また、村役場や政府の通達事項、誕生日のお祝い、子供の出生の知らせ、人の死亡の知らせなどを放送したり、村民の意見や情報交換の手段としてFMラジオ放送が活用されている。FMラジオ放送を通して、人が良いことをしても悪いことをしても、すぐに他の村民に知られてしまう。うわさとともに、FMラジオ放送は、社会的制裁や社会統制の手段という潜在的な機能を果たしている。そして日常の情報交換以外にも、新年の挨拶やクリスマスのお祝いのために、FMラジオ放送が利用されているのである。

現在のアクリビク村のイヌイットは、各

自がFM放送所に電話をかけ、村民全員や何人かの村民に対し、新年やクリスマスのメッセージを送ることができるようになった。他の村のFMラジオ放送所へ長距離電話をかけることによって、何百キロメートルも離れたその村に住む複数の親戚や友人に一度に新年の挨拶やクリスマスのメッセージを伝えることができるようになった。

このように各々の村で行なわれているFMラジオ放送や各世帯にある電話の利用により、一人の人間が、一方的であるにせよ、村内外の多数の人間に情報を容易に伝達できるようになったという点で、イヌイットの情報交換やコミュニケーションのパターンに大きな変化をもたらし、ひいては社会関係にも大きな影響を及ぼしているのである。

また、村にある小中学校では、教師の指導のもと、ビデオ、テレビ、テープレコーダーやパソコンが教育用に積極的に利用されるようになってきている。例えば、北西準州のペリーベイ村の小中学校には、十台以上のパソコンが生徒用に設置され、利用されており、今や狩猟民イヌイットがパソコンを操る時代に突入したのである。

伝統文化の保全と新しい文化の創出

テレビ、ラジオ、電話、パソコンなどの普及と利用は、世界の多くの社会の生活様式に多大な影響を与え、その変革を余儀なくさせてきたと言われている。カナダ・イヌイット

社会の場合、テレビやラジオの普及と英語やフランス語の番組放送が、イヌイットの伝統文化の崩壊やイヌイット語の喪失の大きな原因の一つとなってきたと指摘されてきている。筆者のフィールドワークの体験からしてもこのことは事実であると思う。

しかしここで紹介してきたように新しい情報伝達手段の利用は、イヌイットの民族アイデンティティの自覚、自分たちの世界やカナダにおける政治経済的な位置付けや直面している政治経済的問題の確認、外部社会についての情報の収集、村内外での迅速な情報交換や親族関係の維持など有益な機能を果たしていることも事実である。また、イヌイット語での各種の番組の放送やビデオ、テレビやラジオの上手な利用は、伝統的なイヌイット文化とイヌイット語の理解促進や保全にも十分に役立つと筆者は思う。

各民族の文化伝統は、歴史の産物であり、その継承も重要なことではあるが、一方では文化伝統は人間が生きていくための必要に応じて修正すべきものでもある。文化伝統は不変のものではなく、常に新たに創り続けられるべきものである。かかる意味で、テレビ、ビデオ、ラジオや電話など新たな技術を積極的に利用しながら、残すべき伝統的な文化は継承しつつ、新たな伝統を創り出すことが、二十一世紀を迎えつつある狩猟民イヌイットの課題の一つである、と筆者は思う。